

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな) くらはら むねたか 倉原 宗孝			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな) あべ こうじ 阿部 晃士		岩手県立大学総合政策学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地域環境調査実習	IWKa-110901-0	30人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

今回は震災復興に関わる支援活動を実習テーマとした。その上で担当者からの一定の説明を受けた後、運搬仕分けのボランティア作業など学生が自主的に考えながら取り組んだ。また関係者、被災者へのヒヤリングも一定の情報提供・方法説明などを受け各グループで行ったのは良かったと思う。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

今年度の実習テーマ：「寄り添う」なかで暮らしと人生を考える—東日本大震災、復興支援活動の一つに参加しながら学ぶ。震災復興に関わる支援作業および被災者・ボランティアへのヒヤリングとまとめ。

2. 調査の内容/概要：

①物資仕分け・配布現場の見学、②仕分け作業の体験、③支援者からの体験談、④被災者へのヒヤリング (物資支援状況、被災時・現在の状況、生活全般)、⑤情報の整理と分析 (実習概要およびその様子、レポートの一部を抜粋添付する)

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：

ヒヤリング調査、現地観察調査、および現場体験が主となった。今回は本担当コマでは量的調査は行っていない。盛岡市内にある物資仕分け、配布場所2カ所を対象にした。ヒヤリング対象はボランティア関係者、市内に避難する被災者、等。

4. 主な調査項目：

・復興支援者・ボランティアからみた復興の現状、被災地・被災者の状況 ・仕分け作業の体験・観察
・災害発生時の状況、当時の住まい、避難時の状況、避難所での状況、今後の課題、物資配布の状況・課題、その他フリーに質問。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：

ヒヤリング、観察

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2011.11.18~12.16、盛岡市内 (物資倉庫、配布基地2カ所、30人)

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：

サンプル数としては少ないが、曜日や時間などのバランスも考えて一定の対象者の情報・意見を把握できたと考える。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

ヒヤリング内容に対して各グループ毎に整理・分析したものを担当教員と再度、議論・評価した。その上で修正・加筆などを行った。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：

復興支援の現場に直接携われたことは非常に有益だった。質的調査が主であるが、被災者・ボランティアの方々の直接の声を聞きつつ、今回のテーマである「寄り添う」ということに一定の成果をあげられたと思う。被災者からの情報と共に、そうした対象者に接するという調査経験も重要な成果だった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/*」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。